

## 8 次世代産業の推進について

(経済産業省、文部科学省、内閣府、警察庁、国土交通省、環境省)

### 【内容】

- (1) 燃料電池自動車（FCV）や燃料電池フォークリフトの普及を促進するため、当該車両の購入に対する補助などの支援制度を継続すること。また、水素ステーションやフォークリフト充填用水素供給設備の整備を促進するため、規制の見直しの着実な実施や、整備・運営コストの負担を軽減するための支援制度の拡充を図るとともに、水素エネルギー社会構築に向けた関連技術の開発及び実証を推進すること。
- (2) 完全自動運転の社会実装に向け、国際的な法整備について、早期の確立を図るとともに、国内法においては、法規制の見直しや事業法等の法制度上の整理、事故時等の責任関係・保険の在り方などについての制度設計を加速させること。加えて、通信インフラやダイナミックマップ等社会インフラの整備を加速させること。
- (3) 航空宇宙産業クラスターの強化に向け、海外販路拡大のための取組に対する支援措置を講ずるほか、航空機製造技術者の育成を促進するとともに、航空機関連部品の国内開発促進に向けた実証インフラの整備を推進すること。併せて、当地において開発・生産が進められているMRJ（三菱リージョナルジェット）について、政府及び関係機関への導入や、トップセールスの実施により、普及拡大を支援すること。
- (4) 2020年に愛知県国際展示場で開催される「World Robot Summit」（ワールドロボットサミット）を契機とし、ロボットが実装されている社会を世界へ発信するために、サービスロボットの実用化の促進に資する要素技術の規格統一化や実証インフラの環境整備を推進すること。
- (5) 付加価値の高いモノづくり技術の研究開発拠点である「知の拠点あいち」のさらなる研究基盤強化に向け、「先端研究基盤共用促進事業」により、引き続き支援を行うこと。

(背景)

- FCVの生産には、愛知県のモノづくり技術が活用され、基幹産業である自動車産業の持続的な発展に寄与することが期待される。本県では、「愛知県水素ステーション整備・配置計画」及び「あいち産業労働ビジョン2016-2020」において、FCVの普及及び水素ステーションの整備に関する目標値を設定し、国・県・市町村及び民間企業が一体となって普及促進に取り組んでいる。
- 本県は平成27年8月、国の国家戦略特区に地域指定され、「自動走行実証プロジェクト」を推進している。このプロジェクトでは、道路交通法

等の規制を緩和し、無人自動運転車両を利用したタクシーなど新たなサービスを目指した実証を行うこととしている。平成28年度から様々な道路・交通環境下で実証実験を積み重ねており、平成30年度からは、実用化を見据えた遠隔型自動運転システムによる実証実験を実施しているが、今後、技術開発が加速し、より高度化した技術を用いた実証実験を実施する場合には、更なる規制緩和などが必要となる。

- 海外の先進的な航空宇宙産業クラスターにおいては、国から中核組織への財源、権限の付与、研究開発機能強化の支援等が行われているが、我が国の航空宇宙産業クラスター振興に係る予算に関しては、一般公募により支援先が選定されるなど、国による戦略的、積極的関与が不足している。また、グローバルなマーケット獲得、生産力向上のための人材育成機能の強化も必要である。
- 未来投資戦略2017においては、拡大する海外需要を直接取り込む自立したクラスターを育成すべく、海外企業との商談機会の創出等を行うことやこれまで協力機会の少なかったエアバス等とのマッチング機会の創出、並びに、開発完了後のMRJを実証インフラ（テストベッド）とすることによる航空機関連部品の国内開発の加速等について明示された。また、未来投資戦略2018においても、海外需要を取り込む自立したクラスターの育成について、引き続き言及されている。航空宇宙産業クラスター強化に向けては、海外販路の新規開拓及び研究開発の国際競争力強化が大きな課題であることから、海外企業と地域の企業をつなぐ地域の取組に対する支援措置が望まれる。テストベッドについては、民間企業等とも協議を重ねながら、我が国において最も航空機産業が集積している当地への配置を進めるべきである。
- 本県では、世界に誇れるロボット産業拠点の形成を目指し、平成26年11月に「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立した。本協議会では、ロボットの開発側と利用側の双方が参画する3つのワーキンググループ（「製造・物流等」、「医療・介護等」、「無人飛行」）を立ち上げ、開発や実用化、普及に関する具体的な取組を進めている。
- 政府は、平成28年12月に、「ロボット新戦略」において開催することとされていた国際的なロボット競演会である「World Robot Summit」を2020年に愛知県国際展示場で開催することを決定した。
- 「World Robot Summit」の開催を契機とし、本県ロボット産業の技術力を世界へ発信するため、平成30年度から県内企業等によるサービスロボットの研究開発や実証実験を補助し、社会実装に向けた取組を始めた。
- 「知の拠点あいち」は、FCVや次世代航空機の部材開発等を支援する最先端研究開発拠点であり、多くの中堅・中小企業にも利用されている。現在、「知の拠点あいち」の「あいちシンクロトロン光センター」の共用ビームラインは、当初の6本から10本に増強されており、これまで以上に利用促進が重要となることから、「先端研究基盤共用促進事業」による支援の延長が必要である。

（ 参 考 ）

◇ FCV普及、水素ステーション整備の目標

【FCV普及目標台数】

2025年度 累計台数 20万台達成

【水素ステーションの整備目標数】

2020年度末 40基

2025年度末 100基程度



とよたエコフルタウン水素ステーション

◇ 県内で生産に関わる航空機の受注残及び生産予定

	受注残	2017	2018	2019	2020	2021
B777	99	5機/月			生産数低下	
B777X	326	製造開始	.....	.....	量産初号機納入	.....
B787	650	12機/月	.....	14機/月	.....	.....
MRJ	407	(開発)	(開発)	(量産)	量産初号機納入	.....

※受注残には、オプション契約及び基本合意を含み、数値等は各社の公表に基づく（平成30年1月現在）